

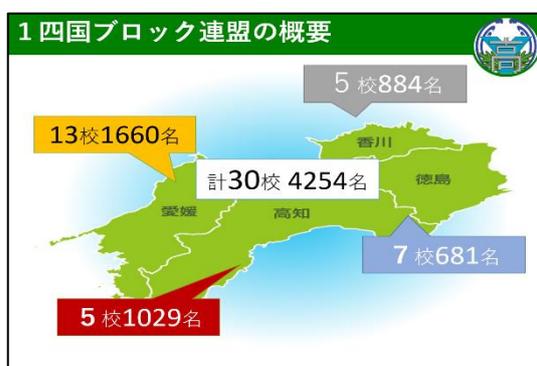
吉野川高校が取り組む「産官学民」連携 ～地域と共に未来を切り拓く～

クラブ員代表者会議 四国ブロック連盟 徳島県立吉野川高等学校
農業科学科 3年 爲田 旭斗
農業科学科 3年 重清 瑠伽
生物活用科 3年 松田 翔

1 はじめに

(1) 四国ブロック連盟の概要

四国連盟は、愛媛県、高知県、香川県、徳島県で構成される、計 30 校 4,254 名のブロックです。



(2) 徳島県連盟の概要

徳島県連盟は城西高校、城西高校神山分校、小松島西高校勝浦校、那賀高校、池田高校三好校、阿南光高校、吉野川高校の計7校で組織されており、各校で特色ある学習活動に取り組んでいます。城西高校では伝統工芸の藍染で国際交流を推進し、平成28年度に新設された那賀高校森林クリエイト科ではドローンを活用したスマート林業を行っています。その他の高校も、地域に根差した活動に積極的に取り組んでいます。



(4) 吉野川高校の概要

本校は、平成 24 年度より旧徳島県立鴨島商業高等学校と旧阿波農業高等学校が再編統合され、新たに徳島県立吉野川高等学校となり、農業科学科・生物活用科・情報ビジネス科・食ビジネス科・会計ビジネス科の 5 学科を設置した高校として誕生しました。従来から 2 校が培ってきた農業教育、商業教育を継承するとともに、食の安全・安心の観点からの教育を加え、農業科と商業科併設のメリットを活かして 6 次産業化をテーマに様々な取り組みを行ってきました。例えば本校の食ビジネス科が運営するスクールカフェ吉野川では、本校の農作物を使用したジャムやスイーツ・カレーライスなどの開発、販売を行ってきました。また、障害児通所支援センターたなごころ吉野と本校の農業科と商業科が連携した農福商連携事業を展開し、もち麦の 6 次産業化の挑戦もしてきました。そして、農業科と商業科が共に歩み続けてきて今年で創立 10 周年を迎え、本校は新たな一歩を踏み始めました。



本校の農業科について

本校の農業科は野菜・果樹の栽培や食品製造の知識と技術を身につけて、食料供給に関する分野を重点的に学習する「農業科学科」。そして、草花やハーブなどの園芸作物の栽培について学ぶとともに、藍染め、フラワーアレンジメント、押し花アートなどの地域資源を活用した、ヒューマンサービス分野について学習する「生物活用科」の 2 学科で構成されています。

各専攻について

農業科は 2 年生になると各専攻にわかれ、より専門性に特化した分野を学習します。農業科学科では、野菜・果樹・食品製造の 3 専攻があり、生物活用科では草花などの園芸作物を栽培する園芸とフラワーアレンジメントや押し花アートを制作する生物活用Ⅰ。そして、藍染めや養蚕について学習する生物活用Ⅱの 3 専攻が存在し、農業科では合わせて 6 専攻にわかれて学習しています。

各専攻の取り組み

私たちは日々、一人一人が農業クラブ活動の 3 大目標である科学性・社会性・指導性を身に付けるために、各専攻に分かれて「産学官民」連携で学習活動に取り組んできました。その一部をご紹介します。

野菜専攻班

野菜専攻班は自分たちが栽培している野菜を使って、地域の子ども達を対象にした農業教室を開いたり、服部製糖所と徳島県立農林総合技術支援センターとの産官学連携で阿波和三盆糖の原料になる竹糖の栽培に関する研究を行っています。



果樹専攻班

果樹専攻班は、様々な果物の生産に関する技術の習得とシャインマスカットの貯蔵に関する研究を行っています。また、果樹専攻班が栽培したシャインマスカットは、阿波市と吉野川市の共通ふるさと納税返礼品として認定され、全国に発信されています。



食品製造専攻班

食品製造班は、クッキーなどの焼き菓子の製造や地域の歴史や民話を研究し、新たな銘菓の開発を地域の和菓子店と共同して挑戦すると共に、野菜専攻や果樹専攻で生産された農場生産物を加工して6次産業化にも力を入れています。

園芸専攻班

園芸専攻班の実習は、鴨島駅前花壇の管理や地域の中学校の花壇の植え付け等も行います。また、季節の花苗の生産から管理、販売の一連の流れを学習しており、地域の方々からの草花についての栽培相談についても助言を行っています。

生物活用Ⅰ専攻班

生物活用Ⅰ専攻班は、押し花アートとフラワーアレンジメントについての学習を行います。国家試験取得（フラワー装飾技能士3級）に向けても学習しています。また、放美展、徳島県手工芸展、全国高校生押し花コンテストに作品を出展しています。

生物活用Ⅱ専攻班

生物活用Ⅱ専攻は、本県の伝統産業の一つである藍染めについての学習と作品の制作活動を行っています。作品は、徳島県手工芸展に向けての作品制作や、四国大学との連携学習も行います。



3 まとめ

これまでに紹介してきたような地域交流で、得られたことをまとめてみます。

- ① クラブ員が「産官学民」連携に取り組むことにより、地域に農業高校の取組を知ってもらうことができ、農業高校への注目や期待がより高まるきっかけとなった。
- ② 地域産業をはじめ、地域の人材・環境・文化など様々な教育資源に触れることで、地域への理解と愛着が深まった。地域への愛着がわくことで、地域貢献が他人事ではなく主体性を持って取り組むようになった。
- ③ 地域の企業や産業への理解が深まり、卒業後は就職を目指すクラブ員自身の職業観の向上に繋がった。

4 本校が考える農業高校の魅力を地域の方に伝える産官学民連携のあり方

私たちは、「産官学民」連携を通して感じたことは、変化する地域の産業界に直接触れることにより、持続可能な社会の構築と情報化の進展の必要性。そして、近い将来、職業人として社会で活躍するための倫理観と合理的かつ創造的に解決する力を養う必要があると感じました。私たちが考える農業高校の魅力を地域の方に伝える「産官学民」連携のあり方は、これらの力を「産官学民」で協働して身に付け、私たちが社会に出て貢献することにより、農業高校の価値が高まり、さらに魅力が地域に伝わると考えました。先輩たちがこれまで紡いできた農業クラブの伝統を受け継ぎ、変化する時代に合わせて後輩にバトンを渡したいと思います。